

日本分類学会連合ニュースレター

News Letter published by the Union of
Japanese Societies for Systematic Biology

No. 34 [2019年12月6日]

日本分類学会連合のトピックス

第19回日本分類学会連合公開シンポジウム

日本分類学会連合第19回公開シンポジウム「分類学者の研究フィールド最前線」が以下の要領で開催されます。

日時 2020年1月11日(土) 13:30~17:00

会場 国立科学博物館(上野本館)2階講堂

主催 日本分類学会連合

共催 国立科学博物館

16:10~16:40 小笠原諸島火山列島~国内最難関の無人島調査への挑戦

加藤英寿：
首都大学東京・牧野標本館

16:40~16:55 総合討論

16:55~17:00 終了挨拶
細矢剛：国立科学博物館

会場へのアクセス

国立科学博物館のホームページをご覧ください。
<http://www.kahaku.go.jp/userguide/access/index.html>

開催趣旨

日本分類学会連合は、全生物を対象にした生物多様性の研究および教育を強力に推進し、ひいては社会の要請に応えるよう活動を行なうことを目的として設立されました。生物多様性研究を一口で言い表すことは難しいものですが、「標本に基づく分類学」が基本となります。つまり、研究者は、各地から標本を集め、それについて研究し、成果を発表することで生物多様性の解明に貢献しています。そして、集めた標本は博物館などに収められ、未来に渡って活用されることとなります。標本の探し方や集め方は研究対象の生物によってさまざま、そこには、独自のやり方があります。そこで、今回は、動物、植物など様々な生物の標本を研究者が「どのように探し、集めるか」に焦点を絞り、一般の皆さんに紹介したいと思います。一般の方が、様々な方法を知ることにより、生物多様性研究の面白さに興味をもつきっかけとなり、さらに、学生諸氏が生物多様性研究を目指す一つの指針になればと思います。

塚越 哲(静岡大学)

プログラム

- 13:30~13:40 開会あいさつ・趣旨説明
塚越哲：静岡大学
- 13:40~14:10 脆弱な深海性クラゲ類：その研究の今
ドゥーグル・J・リンズイー：
JAMSTEC
- 14:10~14:40 いかにして生きた材料で分類学を行うか - 昆虫嗜好性線虫の場合
神崎菜摘：森林総合研究所
- 14:40~15:10 栄えると滅ぶ腕足動物のジレンマ
椎野勇太：新潟大学理学部
- 15:10~15:40 休憩
- 15:40~16:10 世界中のきのこを通して見た世界
保坂健太郎：国立科学博物館

特別寄稿

日本がABS提供国措置を導入した場合に生じうる悪影響

村上哲明

日本分類学会連合ABS問題対策ワーキンググループ・座長

江口克之

同ワーキンググループ・委員

日本は2017年5月22日に生物多様性条約の「生物の多様性に関する条約の遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分(ABS)に関する名古屋議定書」の批准国となり、2017年8月20日から日本国内でもその効力が発生しました。それにより、日本人研究者(プロ・アマ問わず)は海外の野生生物(「遺伝資源」と表現される)の利用に際して、その国のABS関連法令や手続き(提供国措置)に厳密に対応することが求められるようになりました。すなわち、海外で野生生物の調査・研究を行う、あるいは海外産の野生生物試料を用いて日本国内で研究を行う場合には、いわゆるABS指針(平成29年5月18日に財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省及び環境省により共同公布)に従う必要があります。必要となるABS関連手続きは、提供国により異なり、その詳細については国立遺伝学研究所ABS学術対策チームのウェブサイトにてまとめられています。また、個別の相談も受け付けられています(http://nig-chizai.sakura.ne.jp/abs_tft/)。一方で、国内の大学・研究機関では、ABS指針に基づく管理規定や管理組織が整えられつつあります。

さて、これまで日本は、日本に産する遺伝資源を海外の研究機関・個人が利用する場合に提供国措置を取

ってきていませんでした。というのも、日本分類学会連合はこれまでも環境省に対して、日本が提供国措置をしないように（外国人研究者も、日本国内の野生生物を自由に研究できる状況が将来的にも続くように）強く働きかけをしてきたからです。もし日本が提供国措置を導入する、すなわち日本政府が国内の野生生物に対して主権を主張する、となると、日本人研究者が国内の生物材料を海外（特にヨーロッパ）の共同研究者などに送る際に、その都度、日本人研究者が環境省に申請をして、日本政府からPIC（研究目的の各種許可証）を取得してあげないといけなくなります。そうでないと、例えばEUにはABSに違反した人に対して罰則付きの法令があるので、我々の共同研究者が警察に捕まってしまうことが生じ得ます。そのようなことを回避するためには、結局、我々日本人研究者が日本の提供国措置に対応するしかなく、その手間と負担が増えるだけです。さらに、日本政府が国内の生物資源の主権を強く主張するようなことがあると、その対抗として、東南アジア諸国をはじめ開発途上国が今よりも厳しい提供国措置の導入・運用を始め、日本人研究者がPICを取りにくくなる、学術協定（MAT：遺伝子資源の利用により得られる利益配分に関する取り決め）を締結しにくくなることも予想されます。

「日本の提供国措置導入は、日本の主権と国益を守るために必要」との主張は、世間的には受け入れられやすいでしょう。しかしながら、そのことによって生じうる上述のような悪影響は、日本人研究者が海外の研究者と手を携えて行ってきた生物多様性の解明や保全、潜在的有用生物の研究にとって大きな障害になってしまう恐れがあります。日本政府は5年ごとにABS指針を見直すと言明しており、近い将来に「日本の提供国措置導入」が議論の俎上に上がる可能性も十分考えられます。その時には、そもそも生物多様性の解明と保全に「悪影響」が生じうることを強く主張していきたいと、私たちは考えています。ご理解いただければ幸いです。

日本分類学会連合加盟学会の 大会・シンポジウム情報

種生物学会

2019年第51回種生物学シンポジウム
会期：2019年12月6日（金）～8日（日）
会場：コテージヒムカ（宮崎市）

地衣類研究会

地衣類研究会第48回大会
会期：2019年12月7日（土）～8日（日）
会場：筑波研修センター（つくば市）

日本貝類学会

日本貝類学会 令和2年度大会
会期：2020年4月25日（土）～26日（日）
会場：那覇市ぶんかテンプス館（那覇市）

日本魚類学会

2020年度日本魚類学会年会

会期：2020年9月18日（金）～21日（月）
会場：長崎大学文教キャンパス（長崎市）

日本菌学会

日本菌学会第64回大会
会期：2020年6月19日（金）～21日（日）
会場：大阪市立自然史博物館（大阪市）

日本古生物学会

2020年例会
会期：2020年2月7日（金）～9日（日）
会場：東京大学駒場キャンパス（目黒区）

日本昆虫学会

日本昆虫学会第80回大会
会期：2020年9月12日（土）～14日（月）
会場：京都大学吉田キャンパス北部構内（京都市）

日本植物分類学会

日本植物分類学会第19回大会
会期：2020年2月29日（土）～3月3日（火）
会場：岐阜大学柳戸キャンパス（岐阜市）

日本生物地理学会

日本生物地理学会第75回年次大会
会期：2020年4月18日（土）～19日（日）
会場：18日：東京大学弥生講堂（文京区）
19日：東京大学フードサイエンス棟（文京区）

日本藻類学会

日本藻類学会第44回大会
会期：2020年3月26日（木）～28日（土）
会場：鹿児島大学学習交流プラザ（鹿児島市）

日本動物分類学会

日本動物分類学会第56回大会
会期：2020年6月6日（土）～7日（日）
会場：京都大学（京都市）

日本哺乳類学会

日本哺乳類学会2020年度大会
会期：2020年9月5日（土）～8日（火）
会場：東京農業大学厚木キャンパス（厚木市）

TAXA —— 生物分類学メーリングリスト

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト（TAXA）は、生物分類学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストで、生物分類学に関心をもつすべての方に開放されています。〈TAXA〉メーリングリストは下記の趣旨により開設されました。

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の普及と発展に寄与することを目的（規約第2条）」として、2002年1月12日に設立されました。現在、

分類学に関係の深い 27 の学会が加盟しています。その後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展開してきましたが、このたび新たな事業として「メーリングリスト〈TAXA〉」を開設することになりました。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほかに、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討論をするための場を提供することにあります。したがって、このリストは本連合の加盟学会の会員ばかりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰でも自由に行えます。多くの方が登録くださいますようご案内申し上げます。

2003 年 12 月 21 日
日本分類学会連合
代表:加藤雅啓

〈TAXA〉は 2003 年 12 月 13 日に開設され、2003 年 12 月 24 日午後 5 時に稼動開始しました。2019 年 12 月 1 日の時点で 1115 名の会員が登録されています。入会を希望される方は、

- 1) メールアドレス
- 2) 氏名(日本語表記ならびにローマ字表記)
- 3) 所属

を明記の上、〈TAXA〉運営担当の三中信宏(taxa-admin@ml.affrc.go.jp)までご連絡ください。

[編集後記]

分類連合ニュースレターでは随時加盟学会員の皆様から広くご寄稿を募集しております。原稿は江口宛(antist@tmu.ac.jp)に電子メールでお送りください。皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げます。(ニュースレター編集担当: 江口克之)

日本分類学会連合ニュースレター 第 34 号

2019 年 12 月 6 日発行

発行者 日本分類学会連合

事務局 〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館・筑波研究施設内

編集者 江口克之(首都大学東京大学院理工学研究科)
